

陰陽合徳と経済動機の回復

大巡思想の経済観と現代的解釈

待対的自由至上主義の財富観による経済動
機回復の可能性の探究

発表者：洪吉

童

2023年11月15日

目次

- 1 大巡思想と経済観
- 2 自由至上主義の財富観の限界
- 3 陰陽合徳による経済動機回復の概念
- 4 待対的自由至上主義による経済問題の解決策
- 5 結論および示唆点

大巡思想における経済観

循環的経済観と現代の経済問題の連結

大巡思想の循環的経済観は、四つの核心概念を基盤として現代の経済問題に適用される

陰陽合徳 → 経済動機の回復

待対的(待對的)自由至上主義の財貨観を通じて、ギャンブル資本主義が喪失した「自由の拡大」という経済動機を回復

神人調 → 経済倫理の再生

回帰的(回歸的)社会契約主義の分配観を通じて、疎外された経済倫理を現代の経済体制内に再生

解冤相生 → 経済理念の調和

功利主義的労働観を通じて、相互に対立する経済理念間の調和を追求し、葛藤を解消

道通真境 → 環境危機の克服

流行的(流行的)共同体主義の財貨観を通じて、資源枯渇と環境危機を克服する代案を提示

大巡思想の経済観の特徴

- 循環性を中心とする経済観
- 物質と倫理の調和を追求(倫理を水に、財利を火
- に喩える)。個人の自由と社会的正義を同時に考

自由至上主義の財富觀と陰陽合徳

順序の転換による経済動機の回復

自由至上主義の財富觀の限界

循環性の欠如： 自由の拡大のみに偏り、社会の循環的構造を無視

物質優先： 倫理(本)よりも財物(末)を優先する価値観の形成

動機の喪失： ギャンブル資本主義へと転落し、経済動機の喪失を招来

陰陽合徳の解決策：待対的自由至上主義

自由至上主義 火(財利)
の上に水(倫理)



待対的自由至上主義 水(倫理)
の上に火(財利)

『大学』に「物に本末有り、事に終始有り、先後する所を知れば、則ち道に近し(物有本末 事有終始 知所先後 即近道矣)」とあり、また「其の厚くする所の者薄く、其の薄くする所の者厚きは、未だ之れ有らざるなり(其所厚者薄 其所薄者厚 未之有也)」とあるので、これを鏡として仕事に励め。

経済動機の回復と現代的示唆

待対的自由至上主義の実践的モデル

待対的自由至上主義の実践原理

「我らの仕事は他人をよく成らせる工夫である。他人がよく成り、残ったものだけを取っても足りるのだ...」

- 『典経』教法1章2節

待対的自由至上主義は、「他人が与える前に先に与える」という順序の転換を通じて、経済循環の流れを回復する。

経済動機回復の実践方策

- 個人の力による社会保障的效果の創出
- 能力主義から必要主義への転換
- 物質よりも倫理を優先する経済観の確立
- 経済循環への自発的参加と実践

現代の経済問題に対する示唆

- ギャンブル資本主義の経済動機喪失に対する代案
- 自由と正義の衝突から脱した代案的経済モデル
- 個人の自由と社会的正義の調和の可能性
- 倫理(本)と財利(末)の順序回復による経済危機の克服

結論

大巡思想の待対的自由至上主義は、陰陽合徳の原理を通じて既存の自由至上主義の限界を克服する。「他人をよく成らせる」経済活動は、究極的に経済循環を促進し、個人の経済動機を回復させる。このようなアプローチは、現代経済が直面するギャンブル資本主義と経済動機喪失の問題を解決しうる実践的モデルを提示する。